

【議案1】

ESD-J 2017年度 事業報告（案）

<2017年4月1日～2018年3月31日>

I. 概要

ESD の第 2 ステージとして採択された「グローバルアクションプログラム（GAP）」に基づく「我が国におけるグローバルアクションプログラム（GAP）実施計画（ESD 国内実施計画）」（持続可能な開発のための教育関係者連絡会議、2016年3月）では、ESD 推進ネットワークの形成と ESD 活動支援センター（全国・地方）の整備と効果的な運用が、GAP に記された「政策的支援」及び「地域コミュニティ」に関連する施策の柱として明記された。

また「国連持続可能な開発サミット」（2015年9月）において、国連ミレニアム開発目標（MDGs）の後継として 17 の目標と 169 のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択された。ESD に関連するものとして、「目標 4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」が掲げられている。ESD は一人ひとりの価値観や行動の変容を重視するだけでなく、社会を持続可能なものへと変えて行く意欲・力を持った人材を育成することを包含し、ESD は SDGs の基盤である。2018 年度中央環境審議会総合政策部会が審議した「第五次環境基本計画」において、持続可能な地域づくりにおける「人づくり」の重要性を再確認している。

こうした国内外の動向を踏まえ、ESD-J は「マルチステークホルダー（MSH）型の市民組織」としての特性を活かし、ESD をけん引してきた多様な分野の NGO や先進的組織は言うに及ばず、持続可能な社会を目指す地方自治体や政府等の行政機関、企業、学校、国際機関などが縦横につながり、オールジャパンで ESD が推進されていく姿を目指し、以下の事業に取り組んだ。

1. ESD 活動支援センター事業
2. 基盤整備、強化
3. 会員の声・地域の声を ESD 活動支援センターの機能構築に反映させる事業
4. 国際事業
5. その他事業

2017 年度には、全国 8 カ所に「地方 ESD 活動支援センター（以下「地方センター」）がオープンし、ESD 活動支援センター（以下「全国センター」）との連携のもと、地域 ESD 拠点の形成及び登録が始まるなど、全国レベルから地域に密着した活動をつなぐネットワークが誕生した。ESD-J が、DESD 以降も ESD 継続の重要性を確認し、ESD 推進のため、地域と市民社会からの提言としてとりまとめた「13 の提言」の中にある、国レベルのマルチステークホルダーによる「ESD ナショナルセンター」の提案に端を発し、GAP を推進するための国内実施計画の一環として具現化したものであり、大きな前進があった。全国センター業務を受託したことにより、ESD-J は多くの経営資源をここに割かざるを得なかったものの、ESD 推進の全国ネットワークを支えることの意義は大きい。

一方、事務局の運営体制が安定しなかったこともあり、1～5 全ての事業において期待された成果を挙げることは困難であった。長年の課題であった会員名簿管理、会員サービスの見直しは道半ばである。2018 年度は体制を整備し、ESD-J ならではの事業を興し、ESD-J と会員との連携・協働強化を最重要課題と認識し取り組まなければならない。

【議案1】

II 事業活動

1. ESD 活動支援センター事業

(1) 業務の目的

本業務は、ESD 活動支援センター（以下「全国センター」）が、ESD の推進のための各地域をつなぐ全国的なハブ機能の役割を担い、ESD に関する国内外の情報収集・発信、人材育成や教材・プログラムの開発のための情報収集等を行うとともに、2017年7月から9月にかけて全国8ブロックに開設される地方 ESD 活動支援センター（以下「地方センター」）と連携し、地域と地域及び各ステークホルダー間の連携・ネットワークの構築を図り、国内における ESD の一層の推進を目的として実施した。

(2) 業務の実施体制

本業務の遂行に当たっては、多様な主体との協働・連携が重要であることに鑑み、アジアにおける ESD 推進やユネスコスクール支援に実績のある公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）と業務提携し、特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）及び ACCU が各々構築してきた各主体とのネットワークを活用し、効果的、効率的に本業務を実施するために共同体制で取り組んだ。

(3) 業務の概要

1) ESD 活動に関する相談・支援窓口

全国センターは、月曜日から金曜日（土・日曜日・祝日、12月29日から1月3日は閉館）の10時から18時まで開館し、地域の ESD 活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NGO/NPO、企業等）等から、ESD 活動を実践するに当たっての相談や支援の要請に、地方センターと連携して対応した。相談件数は155件であった。

2) ESD 活動支援企画運営委員会の設置・開催

「持続可能な開発のための教育円卓会議」や ESD 関係省庁連絡会議等の議論を踏まえ、ESD 活動実践者の支援や ESD の普及・啓発などの方策について、ESD の推進に取り組んできた自治体・企業の担当者、学識経験者、地方で環境保全活動等に取り組んでいる専門家15名からなる ESD 活動支援企画運営委員会（以下「企画運営委員会」）を設置し、2回開催した。企画運営委員会では、ESD 推進ネットワーク全体の活動の基本的方向を議論し、地域 ESD 活動推進拠点（以下「地域 ESD 拠点」）登録関連事項について、全国センターの2016年度事業計画及び2017年度の事業計画案等について、指導・助言等を得た。

3) ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会

全国センターと地方センターの実務上の連絡、調整、検討を行うため、ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会（以下「連絡会」）を3回開催し、年間を通じた意見交換を行った。ESD 推進ネットワークのために全国センター・地方センターが行うべきことの方向性について意見交換を行い、ESD 関係者が実施する事業の後援やロゴマーク使用承認等の実務体制を整えた。また、地域 ESD 拠点についての考え方を整理し、地域 ESD 拠点登録にあたっての仕組み作りのための議論と資料検討を行った。

4) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等

① ESD 活動支援に係るリーフレット作成

【議案 1】

2016年度に作成したリーフレットを、地方センター及び持続可能な開発目標 (SDGs) 等の情報を追加して 40,000 部印刷した(A4 の 1/3 仕上がり観音折り両面カラー)。リーフレットは、全国センターにて広く活用するとともに、地方センターが主要なステークホルダーに配布するために、各センターに 3,000 部送付した。

②ウェブサイトの運用等

2016年4月に公開したウェブサイトの運用を継続して行い、314件の記事を掲載した。また、全地方センターのウェブサイト構築および運用の基盤を作り、5つの地方センターのウェブサイトの更新作業を担当した。「地方センター」「地域 ESD 拠点」のコンテンツを新規に作成した。

SNS では、Facebook と Twitter の活用を継続し、ESD 関連情報を、全国と地方のセンターから重層的に発信できる仕組みを整えた。

③若者世代による情報発信

2016年度より開始した若者による情報発信を継続し、レポーターが ESD の活動に関する様々な活動にじかに触れ、生の声を聴き、若者の目線でレポートを作成した。作成されたレポートは、ウェブサイトで公開した。

5) ESD 推進ネットワークの構築

①ESD 推進ネットワーク全国フォーラムの開催

多様な主体が連携・協働していくために、ESD 推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、ネットワークが成長するための機会として、ESD 推進ネットワーク全国フォーラム (以下「全国フォーラム」) を、文部科学省、環境省とともに、立教大学 ESD 研究所の共催を得て、11月24日、25日の両日、立教大学にて開催した。全国各地からのべ 260 名の参加を得た。

②地域 ESD 活動拠点の形成支援

イ. 共催・後援・職員派遣

全国センターは、ESD 関係組織・団体の催事を後援することで、ESD 及び ESD 活動支援センター (全国・地方) の認知度を高める機会とするとともに、それら催事に関する広報に協力する。また、後援を新しい主体との連携のきっかけ作りや強化のための機会として、2017年11月からは、全国センターと地方センターの後援名義使用承認手続きの一元化を行った。

全国各地で開催される 47 の催事に対して、全国センター・地方センターでのべ 56 件の後援名義使用承認を行った。また、その内 9 件の催事について職員を派遣した。

ロ. 地域 ESD 拠点登録業務

ESD 推進ネットワークの形成に向けて、地方センターと連携して、各地の ESD の質的向上、量的拡大を牽引する組織・機関を地域 ESD 拠点として登録する仕組みを、企画運営委員会の指導助言、連絡会での実務的議論を経て構築し、2017年11月から登録手続きを開始した。現在 27 件の登録を終え、ウェブサイトの専用サイトに掲載した。

【議案1】

ハ. 地域 ESD 拠点への年次アンケートの作成

ESD 推進ネットワークについて、その取り組みを可視化（見える化）し、関係者全体でその価値を高め、効果的な支援活動を広げることを目的に、年次アンケートを、企画運営委員会の指導助言、連絡会での実務的議論を経て作成し、登録済みの全拠点に送付した。

ニ. ESD 推進ネットワーク形成に係る可視化ツールの分析、検討

2016 年度にネットワーク可視化タスクフォース（以下「可視化タスクフォース」）において作成した全国レベルのネットワークのための可視化ツールについて、可視化ツールを通じて得られた結果の分析を行った。また、地方センター、地域 ESD 拠点を念頭に置いた広域ブロックでの活用にあたり、高松市及び名古屋市でヒアリングを行った。それらの結果を踏まえて、広域ブロックのネットワークにどう応用するかなどの点について検討するための会議を 3 回開催した。

6) 年次報告書の作成

2017 年度の取り組みの内容をまとめた年次報告書（『活動レポート 2017』A4、32 ページ、カラー）を 3,000 部作成し、ESD を推進する関係団体へ送付した。

2. 基盤整備、強化

（1）効果検証に基づく情報発信の強化

【概要】

ESD-J 会員への情報提供及び WEB サイト訪問者数を増やすことを目的として、ESD-J 及び ESD に関する情報発信を行った。情報発信の現状と効果を把握するために WEB サイト訪問者数を解析できるツールを導入し、情報発信前後での検証を行った。

【成果】

- ・ WEB サイト解析ツールとして Google Analytics を導入し、サイトを訪れるユーザー数、ページビュー数、流入経路等の解析を実施した。ページビューは通常 30PV/日程度であったが新規に記事を掲載すると 600~700PV/日程度まで増加した。また、サイトへは Facebook ページからの流入が多く、コンスタントな情報発信と SNS ツールの活用は、サイト訪問者数増加に効果があることが分かった。
- ・ WEB サイトにコンスタントに記事を掲載すると共に、Facebook ページにも記事のリンクを貼り、幅広いユーザーに向けた情報発信を実施した。また、会員からのイベント情報は Facebook ページに掲載し、認知向上を行った。その結果 Facebook ページのフォロワー数は解析開始時 2017 年 7 月の 1,788 人から 1,897 人（2018 年 3 月時点）へ増加し、ESD-J の認知向上に繋がったものと考えられる。

（2）ESD CAFE TOKYO 開催

【目的】

会員または ESD に関心のある方を対象とし、ESD について多様な人々が話し合い、学び合う場を提供することにより、ESD の認知度の向上と取り組みの深化を図る。

【内容】

- 第 1 回開催

【議案1】

日時：2017年10月3日 18:30～21:00

ゲスト：ESD-J 代表理事 阿部 治さん

テーマ：「未来を変えるひとづくり ESD のこれからを考えよう」

内容：(1) 最新の ESD の動向に関する話題の提供

(2) ESD をもっと広げるための構想を練るワークショップ

■第2回開催

日時：2017年12月5日 19:00～21:00

ゲスト：ESD-J 代表理事 重 政子さん

テーマ：「ESD のグッドアクションをシェアしよう」

内容：自己認識を高めるワーク等、参加者が自分の活動に活かせるような内容のワークショップ

【成果】

2回で19人の参加者があり、開催後アンケートを行った結果、参加者の満足度が高いとの結果が得られた。

(3) ESD トーク (インタビュー) 企画・WEB サイトに掲載

【目的】

様々な視点・立場で ESD 活動を実践している方に、ESD と出会ったきっかけや具体的な活動内容等をインタビューすることにより ESD-J との関わりを深め、ESD CAFE 講師候補者を発掘するきっかけをつくと共に、WEB サイトのアクセス数をアップする。

【内容】

■第1回 (2018/1/3,9 に前後編をそれぞれ WEB サイトにアップ)

対象者：千葉ユネスコ協議会 永井壽子さん

■第2回 (2018/2/6 に WEB サイトにアップ)

対象者：社会福祉法人にじのいえ むぎのこ保育園 理事長 鈴木大輔さん

■第3回 (2018/4/23 に WEB サイトにアップ)

対象者：一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) 辰野まどかさん

【成果】

■第1回

・Facebook ページにリンクを貼ったところ、前後編合わせて掲載1週間で1600人に投稿がリーチした。(※通常投稿でのリーチ数は平均300人/週前後)

・掲載1週間でのWEBサイトのページビュー数は960PV/週(※通常700PV/週程度)

■第2回

・Facebook ページ リーチ数：520人/週

・WEBサイトのページビュー：1310PV/週

・掲載後鈴木さんから連絡があり、周りからの反響も大きく、記事を印刷し園で配布・共有してくれたスタッフがいたとの反響があった。

【議案1】

■第3回

- ・ Facebook ページ リーチ数：480 人／週
- ・ WEB サイトのページビュー：1317PV／週

(4) 2017 年度 CSO ラーニング生受け入れ (2017 年 6 月～2018 年 1 月までの 8 か月間)

CSO ラーニング制度は、損保ジャパン日本興亜環境財団が主宰するプログラムであり、大学生・大学院生が環境分野の CSO にてインターンシップを経験し、若い世代が NPO 活動に関心を持ち、市民セクターを通じた社会参画を図るとともに、NPO の強化に結びつけるものである。

【内容】

- ・ 意見交換会、説明会
- ・ 面接。原智美さんをインターン生として迎える
- ・ キックオフミーティングを実施
- ・ ESD-J 事務局スタッフの日常業務のサポートを行った
- ・ ESD CAFE の企画・運営の補助を行った
- ・ グリーンチャレンジデーの準備、当日運営補助を行った
- ・ インタビュー企画 (辰野まどかさんへのインタビューを実施した)
- ・ AGEPP にて収集したアジアの ESD 事例を ESD-J 英語サイトに公開した

(5) 規定見直し

職員がより働きやすい環境整備及び職場のルールをわかりやすくすることを目的として、規程の改正及び規則の制定を 2018 年 2 月 24 日第 4 回理事会にて行った。

1) 就業規則の改正

- ・ パートタイム職員等就業規則を制定したことに伴う、文言の改訂を行った。
- ・ 休日振替及び代替休日について内容を明確にし、代休取得期日を個々の労働条件通知書に記載されている契約期間内と定めた。
- ・ 厚生労働省が作成しているモデル就業規則を基に、備え置く必要のある項目について追加を行った。

2) 職員給与規程の一部変更

- ・ 就業規則の事務遂行上必要な関係を規律する内規的な定めのため、規則から規程に変更した。
- ・ 基本給に固定残業代を含めている内容を記載した。
- ・ 月給の内容及び時間外労働の割増賃金について定めがないため、備え置く必要があることから、厚生労働省が作成しているモデル就業規則を基に、必要な項目を追加した。

3) パートタイム職員就業規則及びパートタイム職員給与規程

パートタイム職員について就業規則及び給与規程を備え置く必要のあることから制定を行った。

3. 会員の声・地域的心声を ESD 活動支援センターの機能構築に反映させる事業

【目標】

「国連持続可能な開発のための教育の 10 年 (UNDESD)」の活動の中で ESD-J の会員を通じて日本の各地域や様々な分野の ESD 推進者の声を集め、提言としてまとめ政府や議員連盟に届けることにより ESD 活動支援センター (以下、センター) が実現した。

【議案1】

ESD 活動支援センターの活動を更に充実したものとし、会員を中心とした市民社会の声をセンター運営や機能に反映させることを通して、新しい官民協働型運営のモデル的公益センターの確立を目指す。

【事業内容と成果】

- ・ESD-J 内に、旧理事を加えた「ESD 推進支援グループ（仮称）」を形成し、政策提言及び交流・学びあいを促進する計画を持っていたが、年度途中で事務局体制が変わるなどの事由によって、発足には至らなかった。
- ・文部科学省が「新学習指導要領」を公表したことを受け、2017年6月の年次総会の後「車座トーク」において文部科学省の職員を招き、学習指導要領改訂のポイント等を講義していただいた後、参加者によるグループワークを行った。ここで出された疑問や意見をとりまとめ、参加者や会員に共有した。このような場を通じて収集・蓄積した現場の生の声をセンターの活動や機能に反映するための方策が必要である。
- ・中央環境審議会において第五次環境基本計画の策定が行われ、総合政策部会と各種団体等の意見交換の場に環境教育等推進団体からは唯一、ESD-J が参加し意見を具申した。センターを例として、ESD/環境教育の更なる推進の必要性を訴えた。センターの事業に直接的な影響があるものではないが、今後の環境政策における ESD/環境教育の重要性を再確認することができた。

4. 国際事業

- ・ESD-J の英語サイトに「アジア ESD 推進事業 (Asia Good ESD Practice Project: AGEPP)」で収集したアジアの ESD 事例を掲載した。
- ・2017年11月11日、池袋にて来日したインド環境教育センター (Centre for Environment Education: CEE) Joshi 氏と ESD-J 理事鈴木が CEE と ESD-J との更なる連携と ESD アジア NGO ネットワーク (ANNE) の更なる単新方策に関し意見交換を行った。
- ・2018年2月8日、東京大学にて、ESD 活動支援センター、ユネスコ・マハトマ・ガンジー平和と持続可能な開発のための教育研究所 (UNESCO MGIEP)、文部科学省、環境省主催、東京大学教育学部附属学校教育高度化・効果検証センター共催で、MGIEP アナタ・デュライアパ所長を招いて国際フォーラム「UNESCO MGIEP が拓く ESD の新しい地平」を開催した。

5. その他事業

(1) 「グリーンチャレンジデー2017」での「ESD 活動支援センターブース」企画・運営
環境省の委託を受けて、2017年9月30日(土)～10月1日(日)、新宿御苑(東京都新宿区)において、新宿御苑来園者や同催事の出展者に対して ESD の普及を目的としたブース出展を行った。

SDGs の17のゴールを使った体験型・参加型のプログラムを実施し、日常的な出来事や行動がどのゴールと繋がっているか考え、ESD の目標・育みたい力・学び方/教え方を体感的に理解できるようにした。また、公益社団法人ガールスカウト日本連盟、こどもエコクラブ全国事務局(公益財団法人日本環境協会)、こどもエコクラブ飯能日高、しろくまキッズ、MIYASHIRO エコ☆スターズが協力団体として ESD の優良な事例を紹介した。

【議案1】

【成果】

- ・SDGsの森のポスターに貼られたシールは合計2,604枚、参加者300名以上であった。
- ・SDGsのロゴマークを世界の人々や動物が描かれた大きな森のイラストに貼る体験は、子供でも参加しやすく、親子でSDGsについて考えながら貼っている姿が多く見られた。
- ・ESD優良事例紹介を行った子供たちは、自分たちが生まれ育った地域への愛着や誇りを強め、学習を深める効果があったと思われる。

(2) ESDコーディネーター研修の企画・運営

岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会（事務局：岡山市市民協働局 ESD推進課）の委託を受け「ESDコーディネーター研修の企画・運営業務」を、2017年7月20日～2018年3月15日の間に実施した。

本業務は、ESDコーディネーター研修ならびに中国地方担当理事である池田満之（ESD-J副代表理事）が業務責任者を務めた。本業務は、「岡山ESDプロジェクト2015-2019基本構想」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として、「ESDコーディネーター研修」を企画・実施し、ESDコーディネーターとして必要な考え方やスキルを身につけた人材を育成するもので、実施にあたっては岡山地域の人材を活用することで、研修のノウハウを岡山地域に蓄積できるよう工夫することが求められた。このため、主任講師を務めた志賀誠治氏（人間科学研究所所長、ESD-J会員）以外は、地元岡山の人材を活用した。受講者は20名弱で、所属は行政職員、市民団体、企業等、多種に渡っていた。主な内容は、以下の通り。

■第1回集合研修...2017年10月12日（木）9:30～17:00

会場：岡山市勤労者福祉センター（岡山市）

〔内容〕①ESDの視点を学ぶための講義やワーク、②グループでの学び合い、
③企画概要づくり 等

■第2回集合研修...2017年11月2日（木）9:30～17:00

会場：岡山市勤労者福祉センター（岡山市）

〔内容〕①企画概要のわかちあい、②企画書づくりに必要な知識の整理、
③企画書づくり 等

■個別相談会...2017年11月30日（木）10:00～17:00

会場：岡山市勤労者福祉センター（岡山市）

〔内容〕企画書についての個別相談（一人当たり1時間の割り振りで実施）

■第3回集合研修...2018年1月11日（木）9:30～17:00

会場：岡山市勤労者福祉センター（岡山市）

〔内容〕①企画書の発表とフィードバック、②企画の練り直し、③Q&A、振り返り、④終了認定証の授与 等

このほかに、上記の研修で対応しきれなかった部分の個別のフォローを行った。また、各回の内容は、関係者専用のwebページを作成して適宜共有した。

【成果】

成果物として、本研修により14の学習プログラム（企画書）ができた。本研修では、3日間の集合研修と、個別相談会を行ったが、特に個別相談会は充実した成果物の作成、一人一人のスキルアップに大きく役立っていた。本研修の委託は3年目であることから、地元人材の活用をより強めて、研修後のネットワークの強化にもつながるように配慮した。

【議案1】

【今後に向けて】

現在の研修プログラムだけでESDを理解するのは難しいと思われることから、1回目にフィールドワークを挟んでどうかという案や、ESDをやろうとしている拠点（公民館など）を会場にしてどうかという案、自習できるテキスト的なものを作ってどうかという提案があった。事業予算とも関わることなので、やれることには限度や制約があるが、できる範囲でより成果のあがる研修になるように、ESD-Jとしても努めていきたい。

Ⅲ. 会議等

<総会>

通常総会 2017年6月25日（日）日能研西日暮里校6Fセミナースペース

<理事会>

第1回理事会 2017年5月14日（日）日能研西日暮里校2F会議室
第2回理事会 2017年7月6日（木）電磁的方法による
第3回理事会 2017年9月25日（月）日能研西日暮里校2F会議室
第4回理事会 2018年2月24日（土）日能研西日暮里校2F会議室

<理事懇談会>

ESD-Jとセンターの今後を考える理事懇談会 2017年8月17日（木）～18日（金）
日能研西日暮里校2F会議室／鳳明館 文京区本郷
ESD-Jとセンターの今後を考える理事懇談会 その2 2017年9月4日（月）
日能研西日暮里校2F会議室

Ⅳ. 会員、理事、事務局等

1. ESD-J運営体制

<会員>※（ ）内は2017年3月末の数、昨年度との差

種類	会員数	種類	会員数	種類	会員数
団体正会員	40 (65) —25	団体準会員	9 (18) —9		
個人正会員	56 (97) —41	個人準会員	60 (125) —65		
賛助会員	5 (10) —5	特別賛助会員	1 (1) ±0	連携交流団体	5 (5) ±0

<役員等>

役職	氏名
代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	池田誠、大塚明、川村研治、小金澤孝昭、下村委津子、新海洋子、鈴木克徳、三隅佳子
監事	浅見哲、吉岡陸子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉

【議案1】

○役員役割表

役 割	氏 名
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、川村研治
総務・労務・経理担当理事	重政子、池田満之、大塚明
センター事業担当理事	【センター長】阿部治、【人事労務、経理総括】重政子、 【副センター長】鈴木克徳
パンフレット制作担当理事	池田満之、川村研治
ESD 推進支援グループ担当理事	小金澤孝昭、大塚明
ステークホルダー間の連携 担当理事	【学校】大塚明 【国際協力、開発分野】池田誠
地域担当理事	【北海道・東北】小金澤孝昭、【関東】川村研治、 【近畿】下村委津子、【北陸・東海】新海洋子、 【九州・沖縄】三隅佳子

<事務局>

役 割	氏 名
事務局長	伊藤通子（9月末まで）
事務局スタッフ	後藤尚味、山本香織、武田朋子、齋藤さおり
ESD 活動支援センタースタッフ	村上千里、児玉実香、渡辺五月、川村まゆみ、金沢信幸